

平成16年3月期 第3四半期業績の概況（連結・個別）
及び業績予想の修正に関するお知らせ

平成16年2月9日

会社名 ジーエルサイエンス株式会社

(コード番号: 7705 登録銘柄)

(URL <http://www.gls.co.jp>)

代表者 役職名 取締役社長
氏名 森 憲 司
問い合わせ先 責任者役職名 取締役 総務部長
氏名 高 橋 良 彰

(Tel: (03) 5323 - 6633)

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

会計処理の方法の最近連結会計年度における方法との相違の有無 : 無
連結及び持分法の適用範囲の異動の状況 : 無
記載の当第3四半期に係る数値については、監査法人の監査を受けておりません。
記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

2. 平成16年3月期第3四半期業績の概況（平成15年4月1日～平成15年12月31日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況

	売上高	営業利益	経常利益	四半期(当期) 純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %
16年3月期第3四半期	11,437 ()	382 ()	361 ()	224 ()
(参考)15年3月期	15,406	468	489	65

	1株当たり 四半期(当期)純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期(当期)純利益
	円 銭	円 銭
16年3月期第3四半期	43 17	
(参考)15年3月期	12 26	

(2) 経営成績（個別）の進捗状況

	売上高	営業利益	経常利益	四半期(当期) 純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %
16年3月期第3四半期	8,513 ()	389 ()	477 ()	365 ()
(参考)15年3月期	11,675	645	732	203

	1株当たり 四半期(当期)純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期(当期)純利益
	円 銭	円 銭
16年3月期第3四半期	70 22	
(参考)15年3月期	38 06	

(注) 1. 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示します。
2. 当連結会計年度は、四半期業績開示の初年度のため、前年同四半期実績及び対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(3) 当第3四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象
記載すべき事項はありません。

3. 平成16年3月期の業績予想（平成15年4月1日～平成16年3月31日）

(1) 連結業績予想

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
今回発表予想（A）	15,883	931	880	511	98.75
前回発表予想（B） （平成15年11月21日発表）	15,603	-	647	370	72.11
増減額（A-B）	279	-	232	141	26.64
増減率	1.8%	-	35.9%	38.2%	36.9%
前期（平成15年3月期）実績	15,406	468	489	65	12.26

（注）今回発表予想の1株当たり当期純利益の計算は、予想年間期中平均株式数によっております。

(2) 個別業績予想

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
今回発表予想（A）	11,914	883	941	616	118.91
前回発表予想（B） （平成15年11月21日発表）	11,560	-	804	525	102.42
増減額（A-B）	354	-	137	90	16.49
増減率	3.1%	-	17.1%	17.2%	16.1%
前期（平成15年3月期）実績	11,675	645	732	203	38.06

（注）今回発表予想の1株当たり当期純利益の計算は、予想年間期中平均株式数によっております。

[経営成績（連結・個別）の進捗状況に関する定性的情報等]

当社グループの第3四半期までの連結売上高につきましては、概ね計画どおり推移しました。

1. 分析機器事業

分析機器事業の業績は順調に推移しております。食物中残留農薬の分析ニーズは相変わらず高水準の状況にあり、また、水道法の改正により水道水中の分析対象農薬が増えたことにより、それら農薬を濃縮抽出する際に前処理操作で使用されます固相抽出関連製品が伸びております。

通期の見通しは消耗品の着実な売れ行きや、水質基準分析法の公定法改定に伴う需要の取り込み等により、第4四半期には自社製装置の出荷台数の増加が見込まれ、前回の予想を売上高、経常利益、当期純利益ともに上回る見込みであります。

2. 半導体事業

半導体関連においては引き続き穏やかな回復基調の動きが見られております。当事業も前回発表では、業績の不振を予測しておりましたが、製造工程の改善や経費の削減等により利益率が向上し、通期の見通しは小幅ではありますが上向きに転じてきております。

3. 非接触 IC カード事業

当第3四半期は予定していた入退室管理システムや、鍵管理ボックスなどの案件が第4四半期以降にシフトしたことにより、前回の予想を下回っております。

ただし、通期の見通しは他社機器組込み型のデバイスも着実に上昇してきており、前回の予想通りと見込んでおります。

以上の結果、平成16年3月期の通期の業績につきましては、連結・個別ともに前回発表の通期業績予想を上記のとおり修正いたします。

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

以 上